

「第 10 期介護保険事業計画」策定に向けた基礎データ分析報告書 －柏崎市の介護の現状とこれから（2026 年版）－

1. 柏崎市の人口構造：高齢化の「質」の変化

前回の第 9 期計画時と比較すると、高齢化のステージが一段階進んでいることが分かります。

高齢化率の加速

令和 2（2020）年（国勢調査）は 34.1%で新潟県（32.9%）や全国（28.7%）を上回っています。また、令和 7（2025）年 3 月末時点（住民基本台帳人口）で 36.2%に達しました。前回の報告書（令和 4 年時 34.8%）から更に上昇しています。（P1）

「75 歳以上」の急増

後期高齢者の割合は平成 12 年の 10.4%から、令和 2 年には 17.7%へと上昇しました。令和 22（2040）年には 25.9%まで上昇する見通しです。（P1）

家族の介護力の低下

令和 2（2020）年（国勢調査）の高齢者のいる世帯は全世帯の 5 割を超えており、新潟県（51.4%）と同程度、全国（40.7%）を大きく上回っています。令和 7（2025）年 3 月末時点（高齢者現況調査）の「独り暮らし（単身世帯）」は 4,847 世帯に達し（前回（令和 4（2020）年）調査比約 300 世帯増）、家族だけで支えることが困難な世帯が増えています。（P2）

2. 他自治体との比較から見える「柏崎の特徴」

柏崎市は、中越医療圏域（6市町村）の中でも独特な傾向を持っています。

項目	柏崎市の現状	他の自治体との比較・傾向
要介護認定率 (P6)	19.4%	中越医療圏域内で最も高い水準を維持しています。
重度者割合 (P4)	35.6%	全国平均より高いものの、新潟県平均を下回り、中越医療圏域内では2番目に低い良好な数値です。
介護保険料 (P7)	5,941円	第9期において全国や新潟県の平均を下回る水準です。

【分析のポイント】

「認定率は高いが、重い介護状態（要介護3～5）の人は少ない」のが柏崎市の特徴です。これは、比較的軽度な段階から適切にサービスにつながり、重度化を防げている成果と言えます。

3. 柏崎市の「強み」と「課題」

✿ 強み：在宅生活を支える確かな基盤

重度化防止の成果

この10年間で、最も重い状態である「要介護5」の構成比を4.3ポイント低下させました。多職種が連携したケアプラン点検等の成果です。

地域密着型サービスの充実

小規模多機能型居宅介護やグループホームなどの地域密着型サービスの受給者数や費用額の3区分別割合が前回同様、県・全国平均を上回っており、住み慣れた地域で暮らすための選択肢が安定して確保されています。

早期の医療連携

訪問看護において、比較的軽度な「要介護1」からの利用が増えており、在宅での療養支援が地域に定着しています。

△ 課題：迫りくる需要への再構築

軽度者へのマネジメント

認定率が高い特性を踏まえ、単にサービスを提供するだけでなく「状態の維持・改善」を促し、自立した生活への移行をより意識する必要があります。

サービスニーズの変化

大規模なデイサービス等の利用が減る一方で、より身近な「地域密着型ケア」へのシフトが起きています。既存の資源をニーズに合わせて再配分しなければなりません。

インフラの多機能化

介護人材不足が深刻化する中、新たな施設整備は将来の需要減退（2040年以降）を見据えると慎重であるべきです。既存施設をショートステイや通い機能の強化など、多目的な拠点として「使い倒す」効率化が必要です。

4. まとめ

柏崎市は、これまで「重度化させない」仕組みづくりで成果を上げてきました。今後は、急増する単身高齢者を支えるため、公的サービスだけでなくボランティア等の地域資源を融合させた「重層的な支援体制」への進化が求められています。また、ICT活用等による生産性の向上も、人材不足を乗り切るための必須課題となります。